

平成 30 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 30 年 10 月 29 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 董 彦 文

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学会参加)
事業名	日本経営工学会 2018 年秋季大会 (国内) 課題番号: 18FD023
事業実施期間	平成 30 年 10 月 27 日～平成 30 年 10 月 28 日
成果の概要	<p>日本経営工学会 2018 年秋季大会は 10 月 27-28 日東海大学高輪キャンパスにて開催された。この大会に参加し、「セル生産実験結果に基づいた作業者の適性に関する考察」を題目とする研究発表を行った。</p> <p>近年申請者は、セル生産に関する実験室実験を設計し、作業時間測定を行ったうえ、様々な視点から作業者の適性を評価し、作業者適性と作業効率との関連を解析した。しかし、いままでの研究では単年度の実験結果に限定し 50~70 人の作業者に関する解析を行ったため、標本数は十分に大きいとは言えない。本研究では、2013~2016 年の実験データを集めて、標本数を増やしたうえ、作業者の作業効率や習熟効果について調べた。作業時間の基本統計と分布を考察し、平均より結構長い時間をかけた作業者が多数いることがわかった。また、クラスター分析により適性の高い作業者は 52%、適性の低い作業者は 7%いることが明らかになった。</p> <p>研究発表のほかに、物流をテーマとするセッションの司会を担当した。また、支部委員会に出席した。</p>